

近代統合医学と BDORT

無敵剛介 M.D., Ph.D., F.I.C.A.E., Cert. ORT-MD (1 Dan)

前久留米大学麻酔科主任教授；第7回バイ・デジタルO - リングテスト国際シンポジウム会長

(Correspondence: FAX:+81-942-36-1961, e-mail:seimei@bdort.net)

日本の医療も、この4半世紀の間に著しい進歩を遂げたが、IT情報の氾濫とグローバル化によって、医療システムの複雑化が制止できず、患者を中心とする近代の医療評価は、むしろ改善の傾向がみられなくなっている。

複雑系医療の多重システムの解析では、システム間の相互作用がむしろ負のフィードバック機構により劣悪化し、近い将来、西洋医学万能時代は破綻し、新しい統合医療の構築が急務となった。

多次元多要素からなる現代の複雑系医療システム構築に対し、パラダイム転換の思考プロセスや要素還元論に基づく解析によってもたらされたグローバリゼーションは、これらシステムの改善には結びついていない。

そこで、新しい時代の統合医療の推進には、新しい観点から多重システム要素間の相互作用を分析し、これを支える多重フィードバック機構を見出し、それらに関連するネガティブ・フィードバック機構を適正に分析判断し、これらに対する個々の的確な対応が先ず必要とされる。

この対応を実現させるには、互いに密接に関連し、相互に干渉し合っている多次元多重フィードバック機構を慎重に分析することが最大の課題であるが、これまでの慣用的方法では、解決策は見出せないのが実態である。そこで BDORT 技術を用いて、現代の医療システムの下に構築された新しい見地から解析し、現存の多重ネガティブ制御系の存在を明確にし、新しい統合医療体系の全体的再構築を行って、新しい医療体系の再構築を行う可能性が見出せるものとする。それは医療の個別化はもとより、患者の複雑なニーズに応えうる多重フィードバック機構を解明し利用しての tailoring 医療体系が成立する必要条件ともなるのである。

このように BDORT 医学は新しい統合医療の構築に不可欠であり、近代医療のパラダイムシフトを着実にポジティブフィードバック機構へと変換推進できる可能性が実現できるものと考えている。

すなわち、現代医療の最大課題の一つに生活習慣病がある。そこで、生活習慣病の病態構造の中心の調節系の多重制御システムの解析が BDORT 技術によって行われ、何が一体難治性の要因なのかを探り、それを客観化し、更に定量化しての適切な、速やかな具体的対応により、生活習慣病に対する新しい統合医療の実現が可能となると考えている。